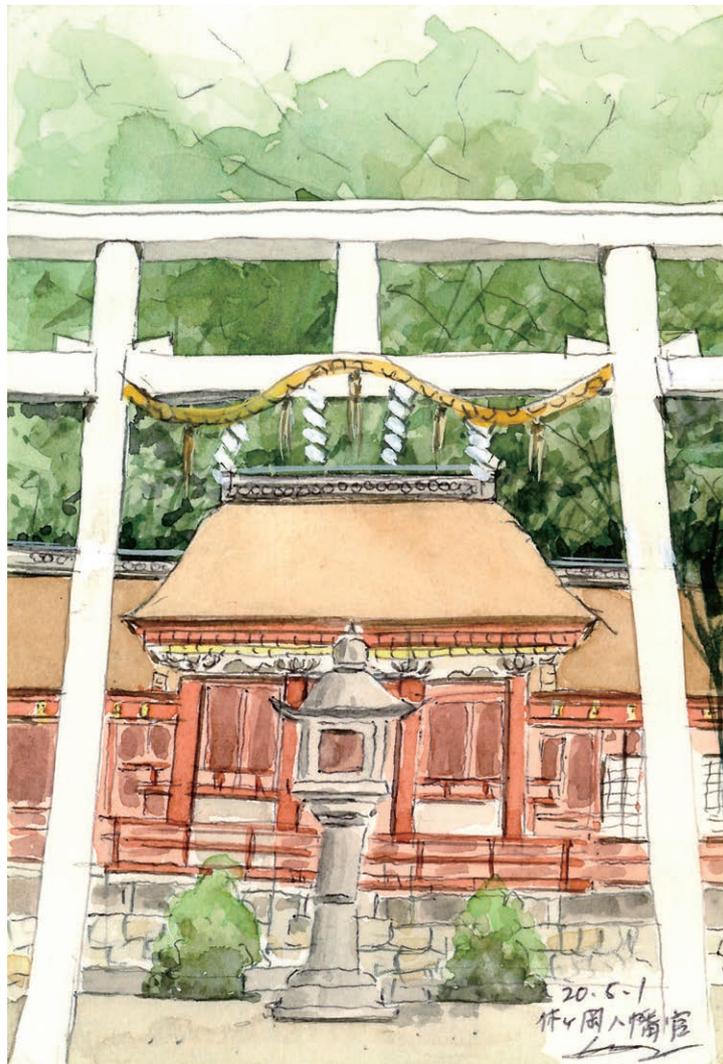


大阪国際サイエンスクラブ

# 会報



International  
Science Club  
of Osaka





## ●目次 Contents

---

特別寄稿 Contribution	想いを短歌で伝える～多様性の時代と短歌～ “Express Yourself with Syllables of Tanka - Poetry and the Era of Diversity -”	高田 ほんかの たかた ほのか	1
特別寄稿 Contribution	「第5回Green Hospitality Osaka シンポジウム」を開催 “The 5th Green Hospitality Osaka Symposium Was Held - "Green" Resources Pave the Way for the Future of Town Development -”	滝本 裕次 たきもと ゆうじ	5
会員のひろば Opinion	私のONE SHOT! “ My ONE SHOT! ”	やまべ ひとし 山 部 仁	8
新会員紹介 Introduction of new members		2	名……………6
事務局からのお知らせ（行事報告） Notice from secretariat			…………… 10
編集後記 Editor's note		いわた けんぞう 岩 田 賢 造	…………… 14

---

表紙：水彩画 「薬師寺鎮守 休ヶ岡八幡宮」

絹田 貞子 プロフィール

1945年 5月 岡山県生まれ

1970年10月 株式会社竹中工務店 入社 設計部配属  
建築イラストレーション国際コンペ入賞  
CG大阪デザインコンテスト、他

1990年 8月 中之島コラージュ「艶」二人展

2000年12月 「ARCHITECTURAL RENDERING」 DREAM PALETTE 出版

2006年 2月 一期一会 絵葉書100枚展 個展

2006年 3月 株式会社竹中工務店 退職

2014年11月 「一期一会」をたずねて 個展

現 在 あとりえ禎 (TEI) 代表

「想いを短歌で伝える～多様性の時代と短歌～」  
(2025年1月29日 テラプロジェクト新年講演会にて講演)



歌人 高田 ほのか

短歌が「最近流行っているな」とか「よく聞くな」と感じておられる方も多いと思います。実際、若い世代、いわゆるZ世代を中心に短歌ブームが起こっています。今日はその短歌の魅力と想いを伝える力についてご紹介させていただきます。

活動の紹介

私は、現在「未来短歌会」という結社に所属し、短歌教室ひつじを主宰するとともに、テレビ大阪の放送審議会委員も務めています。

著書としては、短歌をこれから始めようという方のための「初めての短歌」(メイツ出版)と、「ライナスの毛布」(書肆侃侃房)という歌集を刊行しています。

短歌は1300年前から絶えず詠み続けられている文芸です。私たちが1300年前の万葉集の和歌を読むことができるように、五七五七七は長いながい時間を生き抜く力を持っています。

短歌の魅力伝え、その裾野をより広げられればという思いから、短歌教室ひつじを主宰しています。学生や社会人の方を対象に、2025年1月までのべ1万人以上の方に短歌の魅力伝えてまいりました。

生徒の皆さんも一生懸命短歌に取り組む、様々なコンクールで入賞されています。生徒さんの作品をご紹介します。

「せんせいは なにになりたい？」 あ、そうか  
私も何かに なっていいのね (篠原絵美)

この短歌は歌人の俵万知さんが選者を務められた、「おしごと小町短歌大賞」というコンクールで大賞を受賞されたものです。

もう一首ご紹介します。

「いつか僕 おうちで海を飼うねん」と  
吾子がかけてく 夏の不老橋 (溝呂木やそや)

こちらは第8回和歌浦短歌賞で大賞を受賞されました。このように、多くの生徒さんが色々なコンクールで受賞され、私も励みになっています。

Z世代に見る令和の短歌ブーム  
～自分の本音を三十一音に～

XやInstagramなどで、「#短歌」がZ世代を中心にトレンド化しています。大学の短歌サークルも増えており、令和に入ってから約30もの団体が新設されています。私の学生時代は短歌の低迷期でした。それと比べると隔世の感があり、嬉しい驚きです。

新聞各紙でも、「Z世代の心を掴む短歌ブームとは」や、「アイドルが詠む短歌～Z世代の本音とは」という特集が組まれたりしています。令和に入ってから短歌教室ひつじでも20代の生徒さんが2倍に増えました。若い方に短歌の人気が出てきていることが感じられます。

テレビの番組でも短歌が度々取り上げられるようになってきました。NHKの「あさいチ」という番組では、鈴木奈々ちゃんを指導させていただきました。また、関西テレビの「報道ランナー」でも、「今、短歌がエモい」という特集が生まれ、紹介されました。



新聞やテレビで紹介

社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。能登半島地震が起きた時には、被災者の方々に短歌でエールを送れないかと考え、若い生徒さんを中心になって短歌を作り、被災者の方々にお届けすることが出来ました。

### 韻文と散文の違い

散文は、新聞やメールなど、一定のリズムのない文章。相手に伝えるために書かれます。一方、韻文は一定のリズムがあり、詩や短歌、俳句などがこれにあたります。では、韻文は何のためのものでしょうか。それは自分の心を表現するためのものだと考えます。

私が大好きな漫画家はるな檸檬さんの「ダルちゃん」という漫画が、詩や短歌の魅力を豊かに伝えてくれています。

登場人物のダルちゃんが、詩集を読んでどう感じたのと先輩に問われた時に、「『言葉の一つ一つが輝いて見えるような』、『どこか世界が違って見えるような』、『世界が飛び出してくるような』、『言葉を使って言葉にならないものを表現しているような』、そんな風に思いました。どうしてこんな風に心が動くんでしょうか」と言うと、先輩は「いい詩っていうのはね、本当のことが書いてあるって思うのよ。社会で生きてると、私たちは悲しいのに笑ったり、悔しいのに平気な顔をして、自分の本当の気持ちを置いてけぼりにして、だんだんと自分が何を考えているのかわからなくなって、だから詩に現れる、本当の気持ちに心が動かされるんだと思うのよ。」

詩の本質を表しているなと思います。

### Z世代に見る令和の短歌ブーム

詩や短歌などの韻文は、「心」を表現するものです。変化が激しく、心が置き去りにされがちなSNSの時代に、Z世代は短歌で本音を吐き出している、ということ強く感じます。詩や短歌は人間の心から生まれるものだから、読む人の心にダイレクトに響くのだと思います。

短歌教室ひつじのZ世代の生徒さんの声に、「五七五七七の中に言葉がはまった時、数学が解



ダルちゃん

けたような快感がある」というものがありました。これは、日本語が一番美しく輝くりズムに乗せることで、心をさらけ出すことが出来るということです。また、「一つ一つの言葉を丁寧に考えるようになってきた」という感想もありました。これは、普段喋っているだけでは分からない日本語の豊かなはたらきが、五七五七七の中だとよくわかる、言葉遣いが自然と美しくなるということだと思います。「三十一音の外側の世界に思いを馳せる」という意見、すなわち相手の気持ちを想像する力が養える、相手の作品が自分を見つめ直すきっかけになる、ということもよく聞きます。短歌のもつこのような力が若い世代の心に刺さるのだと思います。

### 働くことの理想と現実

社会で働いていると、時間に追われるような過ごし方をしている方も多いのではないかと思います。でも本当は、誰もがもっともっと生き生きとした時間を過ごしたいと思っておられるのではないのでしょうか。

「今朝起きてから、今この時間までの間で、いつもと同じ風景が違った見え方や感じ方をした瞬間はありましたか」という質問をすると、多くの方はいつもと同じだと感じると言われます。

例えば、お好み焼きを焼く時に、普段なら「美味しそうやな」「いい匂いやな」と感じるぐらいですよね。しかし、短歌に触れているとこんな風に感じる事ができます。

豚玉を返せば ふふふ おもてうら  
きつとどっちも 幸せなんや

五感(ここでは聴覚)が繊細になり、活きた時間に意識が飛ぶのです。短歌に触れていると、日常の中にも匂いや温度があり、かけがえのない「今」を生きていることに気づけるようになります。それは、お店や職場にいながら、一瞬で“生きた時間”にトリップできるということです。自分の心が感じさえすれば、それが全て短歌のタネになります。それは、世界が変わったのではなく、あなた自身の世界を見る目が変わった、ということなのです。

## 社会の言葉と短歌の言葉

社会の言葉と短歌の言葉の違いを表にまとめると、次のようになると考えています。

	社会のことば	短歌のことば
分類	新聞・メールなど	詩・俳句・短歌など
リズム	一定のリズムがない	一定のリズムがある
目的	正確に情報を伝達する 集団・組織が円滑に機能する	自分の心を表現する 本音を吐きだす、自分を癒す
重視	社会に対する精度、効率 合理	個人の不確かで曖昧な感情 条理
社会的な価値	あり お金になる、まともな社会生活を送る	なし そのモノ・人の本質を訴える、特別な世界をつくる、新たな可能性を提示する
生きる実感	なし 生き延びるためのことば 社会的なシステムに寄り添う	あり 今を生きていると感ずることば 個人に深く寄り添う

次のA、Bは、どちらがいい歌だと思いますか？

- A. 留守電に 元気な頃の 母の声  
『ちゃんと食べてる?』 消せずに五年
- B. 留守電に 元気な頃の 母の声  
『あれ?おらんがな』 消せずに五年

「ちゃんと食べてる?」というのは離れて暮らすお子さんに対してお母さんが言いそうな、“真っ当な言葉”のナンバーワン。定型文のようなイメージがあります。一方、「あれ、おらんがな」というのは、実際に経験していないと出てこない表現です。たまたま入っていた留守電の声。お母さんが亡くなり、それがとても貴重なものになってしまった、というニュアンスが滲んでいます。正解はBですね。

短歌のように、間違いや無意味なことを面白がれる術を持っていると、新しい発想やイノベーションを生み出すきっかけになります。

もう1問考えてみましょう。

- A. 傘回し 踊っていると 夜空には  
打ち上げ花火 きれいに咲いた
- B. 傘回し 踊っていると 夜空には  
打ち上げ花火 きれいに割れる

「きれいに咲いた」というのは美しい光景なのですが、実際に見ていなくても、「打ち上げ花火の短歌を書いてください」と言われたら出てきそうな表現です。一方、Bは、実際にその花火を見ていないと書けないリアリティがあると思いませんか。想像で詠まれたものは薄っぺらく、読者の芯には入ってきません。実感を持って詠まれた短歌には、読者の心を動かす力があります。実感から出た、自分の言葉で詠むことが大切なのです。短歌を作る時には、みんなが思うこと(常識や固定観念)が正解ではありません。自分の心が感じたこと(感性・感覚)を大切にしてほしいのです。

みんなに当てはまる正しいことは、現状の価値観を強化するにとどまります。短歌のように、自分のありのままの気持ち、すなわち実感を詠むことは、新しい発想やイノベーションが生まれるきっかけになります。その人・モノの本質的な魅力というものは、正しさの外側にあります。このような理由で、多様性の時代に短歌がフィットし、若者を中心にブームが起きているのではないかと考えています。

## 多様性の時代に求められる企業のあり方

会社の中で、規律正しく生きていらっしゃる方ほど短歌は難しいかもしれません。発想力をたくましくするためにも、短歌を嗜んで脳を柔らかくすることが役に立つと思います。

1300年の歴史を持つ短歌の「本質の魅力を訴える力」を使い、関西の経営トップの方々の魅力を世界に発信したいと考え、経営者の原点を短歌とコラムで表現するという活動を行っています。

そもそも企業は社会にとって有益だからこそ続いてゆくものです。しかし、短歌は社会にとって価値

のあることを書くと、その魅力を失ってしまいます。詩と対極にある企業というものを短歌で詠むことの難しさを感じてしまいますが、社会的な意義を排しながら、いかにして短歌で経営者の思いを伝えられるか、ということに挑戦しています。



関西の経営トップにインタビュー

具体的な作品として、UHA味覚糖様の例をご紹介します。味覚糖様の経営理念は、「おいしさはやさしさ」というものです。「おいしいものはカラダにいい、カラダにいいものはおいしい。病気の時には薬を服用します。健康を願う人はおいしいものを選んでもっと健康になります。健康においしくないものは不向きです。より一層の健康と美しさのため、UHA味覚糖の製品は作られています。」という意味が込められています。それを短歌にしてみました。

やさしさを 舌でコロカラ 転がして  
ときめきって 常に未来だ

社会的に価値のないことを詠む方が詩歌は輝きを放ちます。今を生きる実感を表すことができるのです。

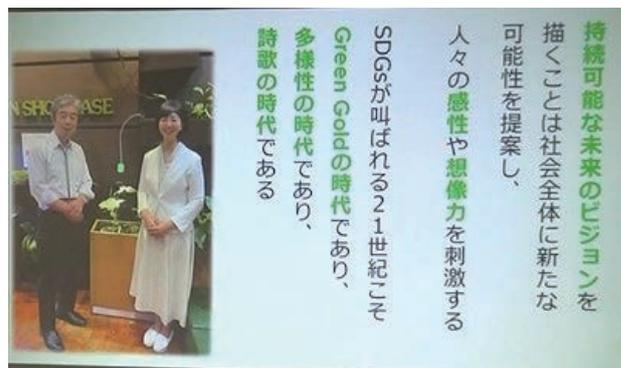
ISCO会員であるテラプロジェクトの小林理事長様にもお話を伺いました。テラプロジェクト発足の原点は、小林理事長が生まれた長野県中央アルプスの伊那で育んだ自然体験だそうです。木にぶら下がってターザンごっこをしたり、お腹が空いたらおやつ代りに木の実を採ったり…。山に入り、木の匂いを嗅ぎ、花に触れる日々を過ごしたことが、今の活動に繋がっているということでした。テラプロジェクトは「植」「食」「健康」をキーワードに、市民や企業が協力し、持続可能な社会の実現に貢献する「緑

のSDG's」の達成を目指すなど、多彩な活動を行う団体です。その活動の一つに、「レモンの樹によるみどりの回廊づくり」というものがあります。小林理事長は、「21世紀はGreen Goldの時代。すなわち緑が金の価値を持つ時代」とおっしゃっています。環境と経済の両輪が世界を牽引するということを象徴しています。このことを短歌にしてみたいなと思いました。

てのひらと <sup>そら</sup>宙のあいだに 1000年の  
レモンの樹々の そよぐ夜です

SDG'sのゴールの一つに「気候変動に具体的な対策を」というものがあります。社会がようやく気づき始めた、持続可能な社会の重要性。これこそがテラプロジェクト発足の原点です。自分の手のひらと、空の高いところ、すなわちテラプロジェクトの「テラ」(宇宙)との間に、レモンの木々の営みがずっと続いていきますように、というような思いを込めました。

小林先生のインタビューからは短歌が作りやすかったのです。効率や利益を超えたテラプロジェクトの取り組みが私の感性と共鳴し、詩のインスピレーションが湧いたからだと思います。社会と詩の両方を内包する、稀有な存在であるテラプロジェクトのような企業や団体がこれからはたくさん出てくるのではないかなと感じています。持続可能な未来のビジョンを描くことは社会全体に新たな可能性を提案し、人々の感性や想像力を刺激する。SDG'sが叫ばれる21世紀こそGreen Goldの時代であり、多様性の時代であり、詩歌の時代であると感じています。



21世紀は詩歌の時代

## 「第5回 Green Hospitality Osaka シンポジウム」を開催



(一社) テラプロジェクト  
滝本 裕次

「日本みどりのプロジェクト推進協議会」の重点プロジェクトの一つ“One Green プロジェクト”のメイン事業である「第5回 Green Hospitality Osaka シンポジウム」(共催:みどりのイノベーション推進協議会:(公財)大阪観光局、(一社)テラプロジェクト)が3月17日(月)に大阪富国生命ビル4階「まちラボ/エレベータホール」で95名の参加者を迎え開催されました。

これまで「みどりのイノベーション推進会議」では、2019年に「第1回 Green Hospitality Osaka シンポジウム」を開催以降、「日本みどりのプロジェクト推進協議会」との共催で4回のシンポジウムを通じて、都市部における“みどり”の必要性について社会啓発を進めるとともに、エリアマネジメント組織と連携したまちづくり、さらにはソーシャルビジネスへの取組などを進めてまいりました。

今回は、本シンポジウムを通じて、都市部におけるエリアマネジメントと都市公園の連携による地域活性化に向けて、専門家の講演や事例発表、会場参加者との活発な意見交換を行うことができました。

当日は、冒頭 主催者である(一社)テラプロジェクト 小林昭雄理事長より開会のご挨拶ならびに「第5回 Green Hospitality Osaka シンポジウム」開催の狙いである「ソーシャルビジネスで拓く持続可能なみどりの環境づくり(Green Hospitality 活動)」に通じる、各種社会貢献事業について、テラプロジェクトの具体的な取組事例をもとに詳細な紹介があった。また、今回のシンポジウムを通じて、我々に身近な“みどり”の拠点である公園のもつ機能の多様性を再確認するとともに、公園の姿を行政や地域社会が持つ従来の“べき論”から市民参加の“いいね論”に転換することの重要性を指摘された。



引き続き、大阪市北区長 寺本讓様からは、ご来賓挨拶として北区における公園をはじめとする都市緑化の現状と課題を紹介いただいた後、本シンポジウム開催へのお祝いと今後の活動への期待を述べられ、シンポジウム



の第一部が始まった。

第一部では、最初に「特別講演1」として流通科学大学経済学部教授の植松宏之先生から「エリアマネジメントがひらくまちづくりの未来」というテーマで、エリアマネジメントの定義や国内外のエリアマネジメント活動事例、特に梅田地区のエリアマネジメント活動について詳しい紹介がなされた。なかでも植松先生ご自身が行ってこられた大阪版 BID 条例や日本版 BID 法創設、さらには大阪梅田地区でのエリアマネジメント組織の代表として取組まれた様々な先進的な事例についてご紹介いただいた。



最後に今後のエリアマネジメントの方向性(エリアマネジメントは、ローカルファーストの視点で経済的な活動から社会的な活動にシフト)や、“みどり”が生み出す新産業やコミュニティ、さらには経済効果の可能性について展望と課題提起がなされた。

続いて、「特別講演2」としてNPO法人「NPO

birth」事務局長 佐藤留美様より「“パークポジティブ”～公園のチカラはまちな力～」をテーマにお話があった。全国でも稀な



「みどりの中間支援組織」である「NPO birth」の設立経緯からはじまり、自らの海外でのNPO体験や、「みどりの中間支援組織」として様々な形で企画運営に携わられている全国の公園や民有緑地の保全・利活用についての多くの事例を交えてご紹介いただいた。日本が直面する多様な社会課題～都市災害、少子高齢化、自然環境の悪化、地域力の低下～解決に貢献する「グリーンインフラ」である7つの公園のチカラ（「自然を守り育てる」「教育・遊びを子どもたちに」「健康とレクリエーションを」「文化・芸術を発信する」「都市の防災をサポート」「まちへの経済効果」「コミュニティに絆を」）の具体的な活動事例報告など新鮮で興味深いお話があった。

続く第二部では、官民4名の方からエリアマネジメントやパークマネジメントに関連する取組事例の発表があった。

一人目は、大阪市建設局公園緑地部公園活性化担当部長 牧慎一郎様より「大阪市の公園における官民連携の取組」をテーマ



にお話しいただいた。冒頭、大阪市緑の基本計画ご説明の後、長居公園における民間提案による課題解決の取組事例としての「スケートボード広場」の設置と効果など、近年実施された大阪市内の大規模公園における官民連携の紹介があった。

大阪市では現在、公園官民連携の提案窓口も開設され、中小も含む公園における官民連携に力を注がれている。

二人目は、扇町公園スマイルパートナーズ 代



表 大和リース（株）執行役員 大阪本店長 堀越良一様より「扇町公園 Value Innovation」をテーマにお話をいただいた。大和

リース（株）様は、現在全国で37カ所、953.5haの公園管理事業の実績をお持ちで、今回は大阪府下でのPark-PFIの事例の中から扇町公園の価値創造について、指定管理事業者としての2年間の活動実績（施設整備・改修の取組）や、扇町公園プラットフォーム（スマイルパーク扇町）が取組んだ公園の魅力向上に向けた各種活動について紹介があった。

三人目は、（一社）テラプロジェクト専務理事 峯平慎哉様より「扇町公園 One Green プロジェクト～みどりのサンタの植育イベント“公園と街にお花を届けよう”～」をテーマ



にお話をいただいた。今回は、テラプロジェクトが取り組まれている多くのOne Greenプロジェクトの中から、大阪市北区での「レモンの樹によるみどりの回廊づくり@梅田」と「みどりのサンタの植育活動@扇町公園」を通じた「ソーシャルビジネスづくり」の背景と意義についての詳しい紹介と今後のOne Greenプロジェクトの方向性についてのご提案があった。

四人目は、（株）星田逸郎空間都市研究所代



表取締役 星田逸郎氏より「“Ground City”一まち・ひと・みどりの関係づくり」をテーマにお話をいただいた。その中

で、梅田が本当の都市になるためには、うめきたⅡ期の開業による有名ブランドやイベント展開だけではなく、既存市街地も含んだ日常文化のネットワークづくりと場づくりの重要性について“みどり”と都市空間の視点から紹介があった。具体

的には、「みどりと人間の関係をデザインすること」の重要性をご自身が携わられた建築・設計施設の様々な事例をもとにご説明された。



最後に、特別講演の講師をしていただいた流通科学大学の植松宏之先生にコーディネーターをお願いし、事例発表者4名の方々にパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションのテーマは、「“みどり”がひらくまちづくりの未来」。その背景には、2002年都市再生特別措置法が創設され、大阪梅田地区は、都市の再整備が進み、国内外から多くの来街者を迎える国際都市に成長してきているということがある。昨年、国は「都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針」を打ち出し、都市再生事業にも「みどり」の重要性を訴求している。本年4月に2025大阪・関西万博を迎え、「みどりでおもてなし」の精神で実践されている4名の方から以下に示す3つのテーマで議論していただいた。また、このディスカッションには寺本北区長、佐藤留美氏の他、ウメシバまちづくり協議会三島会長などの会場参加者も加わり、活発な議論が交わされた。



### ＜パネルディスカッションの3つのテーマ＞

1. 「みどり」と「地域経済の活性化（不動産価値・観光促進）」
2. 「みどり」と「イノベーション（社会課題解決・新産業創造）」
3. 「みどり」と「コミュニティ形成（地域との合意形成・シビックプライド）」

本シンポジウムの閉会にあたり日本みどりのプロジェクト推進協議会事務局（企画・広報部長）の（公財）大阪観光局 万



博・IR推進室観光ショーケース担当部長 砂野智司様より、今回のシンポジウムへの参加の御礼と今後の官民一体となったまちづくりへの期待を述べられて「第5回 Green Hospitality Osaka シンポジウム」は閉会した。

### 【編集後記（滝本）】

今回の「第5回 Green Hospitality Osaka シンポジウム」では、都市緑化の中で我々の一番身近にある公園をテーマにエリアマネジメントの視点と公園の持つチカラの連携の重要性について自分事として良く理解できたシンポジウムでした。

年度末のお忙しい中、ご登壇いただいた各専門分野の講師の皆様にご誌面を借りまして厚く御礼を申し上げます。





# 私のONE SHOT!

撮影者：山部 仁 様(株式会社竹中工務店)



「メジロさんがやってきた」

2022年4月2日

2020年に始まったコロナ禍もようやく終息が見えてきた2022年の春、我が家の庭から見えるソメイヨシノにメジロさんがやってきたのが、窓から見えました。

二階の書斎に戻って、デジタル一眼レフカメラに望遠ズームをセットして、庭に出て、連写撮影した時の一枚です。メジロさんのまんまるした目がとても可愛くて、2Lサイズに引き伸ばして額に入れ、早速リビングに飾りました。春になるとその時のメジロさんを思い出します。

5DmarkIV, EF70-200mmf/2.8 L, x2アダプター, 400mm, f/7.1, 1/320秒, ISO200 Trimmingあり

「ウィーン楽友協会」

2020年6月4日

私の会社には入社25年目に、2週間の連続した休暇がとれる制度があります。私は25年目に海外駐在していたため、25年特別休暇は延期していました。入社28年目によりやくお休みを取って、憧れのヨーロッパ旅行に2週間旅行してきました。ハプスブルグ家とエリザベート皇后を巡る旅と称してウィーンを中心に、ブダペスト、チェコを巡りました。ウィーンではオペラハウスのチケットが取れず、代わりに、ウィーン楽友協会の演奏会に行きました。演奏会は日が暮れた午後7時からでしたが、ライトアップした古い建物がとても印象的でした。

5Dmark IV, EF24-105mmf/4 L IS USM, 24mm, f/4, 1/30秒, ISO2500



## 会報へのお写真投稿のお願い

会員の皆様のご自慢のお写真をどんどん掲載します！

写真をご趣味にされている会員さま、お気に入りの写真に撮影された時のコメントなどを添えてご投稿下さい！お待ちしております！（詳しくは下の窓口までお問い合わせ下さい）

<本件窓口> 大阪国際サイエンスクラブ 事務局

TEL:(06)6441-0458 FAX:(06)6441-0459 e-mail:science@isco.gr.jp

# 新 会 員 紹 介

新しく入会された会員をご紹介します。〔敬称略〕

- (1) 年齢 (2) 出身地 (3) 所属（会社名等）部署・役職名
- (4) 趣味：読書（最近読んだ本）・旅行（印象に残った土地、理由等）・その他
- (5) 入会に際しての抱負など



ながい せいじ  
永井 靖二 (1) 66歳 (2) 山口県下関市

- (3) 株式会社大林組 副社長執行役員
- (4) 読書：「大阪が日本を救う」「大阪 人づくりの逆襲」

共に日本総合研究所 調査部長/チーフエコノミストで関西経済分析の第一人者である石川智久氏によるものです。「大阪学」ともいえる大変興味深い書籍です。

旅行：松山市 松山城だけでなく、司馬遼太郎の作品を読み、NHK のドラマを観たことから「坂の上の雲ミュージアム」も訪れました。

- (5) 2018年～2020年に入会しておりましたが、その後の広島転勤を経て、この度再入会させていただきます。皆様との交流を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

こうのうら よしき  
神之浦 善紀 (1) 53歳 (2) 大阪府

- (3) 株式会社大林組 総務部・部長
- (4) 読書：乱読家のため「これ」という作品はありませんが、気分が高揚しているときはハードボイルド、塞いでいるときは和み系の本を好んで読みます。  
特に好きな作家は藤原伊織さん、有川浩さんです。

- (5) 大阪・関西万博開幕のこのタイミングで、歴史と伝統ある大阪国際サイエンスクラブへ入会する機会をいただきましたことに大変感謝しております。

好奇心を胸に、様々な分野で活躍される先輩方との交流を通じ視野を広げたいと思います。皆様、何卒宜しくお願いします。



## 事務局からのお知らせ

最近の行事のご報告

### 1/7 新年交歓会 (OSTECと共催)

OSTECならびにISCOにゆかりのある総勢312名の方々をお迎えし、新年交歓会を開催しました。OSTEC稲田会長のご挨拶、ISCO武内理事長のご挨拶・乾杯のご発声の後、お集まり頂いた皆様には立食でご歓談頂き、一層の親交を深めて頂きました。



# 事務局からのお知らせ

## 最近の行事のご報告

1/17~2/7の毎金曜日開催 「金曜サイエンスサロン」

### 「脳と感覚認知」～五感だけでない多様な感覚を扱う脳の情報処理機構のモデル化～

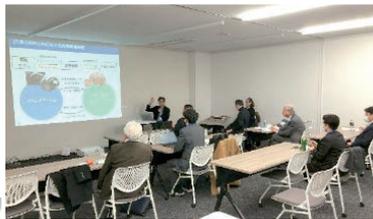
<コーディネーター> 脳情報通信融合研究センター(CiNet) 統括 柏岡 秀紀 様

CiNetでは、2011年の創設以来、脳科学と情報科学を融合させ、脳の高次機能の本質的な理解とその応用を目指して活動してきました。脳の高次機能には、外界の情報を様々な感覚により認知、処理する機能があります。すぐに思いつく感覚は五感ですが、日常生活の中では時間感覚や運動感覚など、いわゆる五感とは異なる感覚も多く存在します。この多様な感覚に対する脳の情報処理機構をモデル化する研究にも積極的に取り組み、これまでの研究からまだ解明されていない脳の機能が見えてくるとともに、脳を理解する上でのヒントも得られてきています。これからの研究展開を見据えて、研究成果の一端をご紹介頂き、研究センターの進むべき道について、参加者とともに意見交換を行いました。

また、回ごとに講演後に講師の先生を囲んでの懇親会を開催し、講演時の質疑応答とは一味違ったフランクな話題で大いに盛り上がりました。



日時	テーマ	講師
第1回 1月17日(金)	「時間」と「空間」の脳科学	北澤 茂氏 (NICT CiNet 研究センター長、阪大院生命機能研究科教授)
	VRと脳機能イメージングで紐解く視覚の仕組み	和田 充史氏 (NICT CiNet)
第2回 1月24日(金)	超高磁場MRIで解き明かす嗅覚の脳内メカニズム	黄田 育宏氏 (NICT CiNet)
	眼と脳による視覚世界の補完	番 浩志氏 (NICT CiNet)
第3回 1月31日(金)	主観的体験のメカニズム - 脳はどのように時間や数を感じるのか	林 正道氏 (NICT CiNet)
	固有受容感覚の脳内情報処理とこれを活用した運動機能改善	内藤 栄一氏 (NICT CiNet)
第4回 2月7日(金)	サイバネティック・アバターへの脳情報処理が拓く未来	春野 雅彦氏 (NICT CiNet)
	生物に学ぶ100万倍省エネ情報処理アルゴリズムとAIへの応用	柳田 敏雄氏 (阪大院情報科学研究科特任教授、NICTフェロー)



## 事務局からのお知らせ

最近の行事のご報告

2/28  
特別懇談会

『人類期待のエネルギー源『フュージョン』研究施設見学と講演』  
～京都大学エネルギー理工学研究所(ヘリオトロンJプロジェクト)～

<長崎百伸教授によるご説明と施設見学>

フュージョン(核融合)は、太陽をはじめとする宇宙の星々が生み出すエネルギーの源です。長い時間、膨大なエネルギーを生み出し続ける太陽で起きている現象を人類の手で生み出し、発電等に使用することを目指して研究開発を進めています。フュージョンの燃料は、海水中に豊富に含まれる重水素や三重水素などであるため、エネルギー問題と環境問題を根本的に解決するものと期待されています。

京都大学エネルギー理工学研究所では、ヘリオトロンJプロジェクトとして、「ヘリカル方式」の核融合を、米国やドイツ、また日本の研究機関と共同で進めています。今回の見学会では、フュージョンについてわかりやすく解説して頂くとともに、研究の中核施設であるヘリオトロンJ装置を見学させて頂きました。



## 事務局からのお知らせ

### 最近の行事のご報告

## 3/5 ワインセミナー 「品種の個性もまた楽し」

ブドウの品種もまるで人間のように色々なタイプがあります。

例えば白の品種シャルドネ。枕が変わってもどこでも熟睡出来るような大らかな性格。適応能力が良すぎて八方美人みたいに言われるのが気の毒ですが、安定した人気の品種です。

他に、主役しか受け付けません!! みたいな強い個性の品種カベルネソーヴィニヨン等、それぞれの品種の個性についての解説を聞きながら、花岡先生に厳選して頂いた6種類のワインと美味しいお料理を味わいました。

<花岡 ゆみ 様>

日本ソムリエ協会認定シニアソムリエ

日本ソムリエ協会認定SAKE DIPLOMA

日本チーズプロフェッショナル協会認定チーズプロフェッショナル



### 今後の行事について

- ・4/4 国際交流懇談会「海外の外交官・公務員研修生との交流@国際交流基金 関西国際センター」
- ・5/14 会員の集い「竹中大工道具館」見学会
- ・6/11 会員総会・記念講演会・記念パーティー  
※記念講演は、京都大学名誉教授 柴田一成先生による「太陽の大異変 スーパーフレアが地球を襲う日（仮題）」を予定しています

この後も、おもしろい行事を企画していきますので、皆様のご参加をお待ちしています!



## 編集後記

4月13日 いよいよ大阪・関西万国博覧会が開催されます。

大阪・関西万国博覧会のテーマは「世界の人びとと、「いのちの賛歌」を歌い上げ、大阪・関西万博を「いのち輝く未来をデザインする」場です。

いのちに関する8つのテーマ:「いのちを ①知る、②育む、③守る、④つむぐ、⑤拡げる、⑥高め、⑦磨く、⑧響き合わせる」に賛同し、158の参加国・地域及び9国際機関がパピリオン展示で参加します。国内では、政府をはじめ都道府県、公共団体、大企業・中小企業まで多くの機関・企業がパピリオン展示や会場運営に参加しています。更に、万博の新たな挑戦「テーマウイーク」で、週替わりの催しを万博会場・会場外で行いますが、これも期待したい行事の一つです。

詳細は、2025年日本国際博覧会協会 公式サイト: <https://www.expo2025.or.jp> をご覧ください。

特に、開催地大阪を中心に関西の経済の活性化、拡大の機会ととらえて期待が高まっています。開催期間は10月13日まで半年間、内外の見学者に素晴らしい感動と未来への夢を提供し、世界平和とSDG'sの進展を願ってやみません。

春号では、新鋭の歌人高田ほのか先生に、和歌の魅力、言葉に込められた魅力ある表現方法等について話していただきました。高校の国語で万葉集や百人一首に触れて以来の私も、初めて一首詠んでみました。

杖ついて 膝をかばいて 散歩する 元気に走る 幼児うらめし

会報No.282号(春号)を無事発行できたことを、感謝するとともに、お読みいただきました皆様の、積極的なご意見や寄稿をお待ちいたしております。

広報委員 岩田 賢造

2025年4月(R7)発行

大阪国際サイエンスクラブ 広報委員会  
大阪市西区鞠本町1丁目8番4号 TEL (06) 6441-0458  
ホームページ :<http://www.isco.gr.jp/>  
E-mail アドレス :[science@isco.gr.jp](mailto:science@isco.gr.jp)





